



ジャガー・ルクルトが「イン・ザ・メイキング」を発表 完全一体型のマニファクチュールに結集された **180** の技術

新しいビデオシリーズで、マニファクチュールの舞台裏にせまり、
そこで働く職人たちの技と情熱をこれまでになく詳細にご紹介します

ジャガー・ルクルトは、ジュウ渓谷にあるマニファクチュールのひとつ屋根の下に結集された **180** 種類もの時計製造技術に敬意を表し、これまでに見られなかった舞台裏を紹介する新しい短編映画シリーズを公開しました。このシリーズは、**1833** 年以来メゾンを突き動かしてきた情熱を明らかにするとともに、創造性、精度という時代を超越した価値観にオマージュを捧げています。

「イン・ザ・メイキング」の各動画は、時計製造における容易には見られない工程など、個々の技術に焦点を当てており、それぞれの技術を実践する職人に親しみと感謝を込めて敬意を表しています。各映画では、職人が自分の言葉で自らの工程を説明します。今後何世代にもわたって受け継がれる高級時計のデザイン、製造、組み立て、装飾に打ち込む職人の情熱やひたむきさが伝わってきます。効果的な照明、肩越しのカメラアングル、そして長年にわたって培われてきたことで完成した正確な作業のクローズアップにより、親近感が増します。

「イン・ザ・メイキング」は、完全に統合されたジャガー・ルクルトのマニファクチュールに結集されたすべての技術を万遍なく取り上げており、「デザイン」、「製造」、「仕上げ」、「装飾」という、高級時計の誕生に必要な一連の工程に対応する複数の章から構成されています。

デザイン

デザインは、文字盤の形状、サイズ、スタイル、構成、そしてケースといった時計の美しさを決定付けるだけでなく、新しい複雑機構やムーブメントの開発、特定の機能を果たすために必要な部品の形状、ムーブメントの全体構造、ムーブメントを収めるケースの技術要件、人間工学的なあらゆる視点など、すべての技術的問題に関わっています。

デザイナーは、テクニカルデザイナーやムーブメントの製作者と密接に連携しつつ、過去、現在、未来を見据えて大まかなアイデアを鉛筆と紙でスケッチします。外観が美しいデザインでも、最高精度の工学的、技術的デザインと結びつかなければ、時計製造では無意味です。



製造

「イン・ザ・メイキング」では、製造において一般的に「工業的」とみなされる工程（容易に目にすることがなく、人々にほとんど知られていない技）を深掘りし、この各工程をマスターしたスペシャリストたちが、マニファクチュールの他のあらゆる分野の同僚たちと同じように、精度と芸術性に対する熱意、そして自分たちの技術に対する情熱をどのように共有しているかがおわかりいただけます。ジャガー・ルクルトの製造工程は、未加工の金属から始まり、カットや型打ちなど、数々の加工を施して、最終的にさまざまな形状の部品が製造されます。そして、数え切れないほどの組み立て工程を経て、最後にムーブメントをケースに収納し研磨を行うことで、金属に対して魔法のように生命が吹き込まれます。

ジャガー・ルクルトの修復工房では、新しいタイムピースの製造だけでなく、同じ製造工程を多く用いて、40年、60年前の時計はもちろん、90年前の時計にも新たな命を吹き込んでいます。修復のスペシャリストたちは、入手可能な場合、オリジナルのスペアパーツを使用しますが、オリジナルの設計図と加締工具（金属プレス加工用の型枠）を使って、同一の部品を一から製作することもあります。

仕上げ

ケース、ベゼル、ラグ、リューズなど、時計の目に見える部分に光と反射をもたらすポリッシャーは、あらゆる仕草で時計に魔法のような命を吹き込む力を持っています。

高級時計は外観だけでなく、見ただけではすぐにはわからない部分も美しくなければならぬという信念に基づいて、ジャガー・ルクルトは、ムーブメントの繊細な仕上げや手作業による装飾を極めて重視しています。

ハイコンプリケーション搭載の時計は、その希少性と価値に応じた特別な専門技術を要します。このような仕上げ技術は、ペルラージュ、コート・ド・ジュネーブ、ブルースクリュー、面取り、スケルトン加工といった伝統的なものから、マイクロブラスト加工などのモダンな仕上げまで、多岐にわたります。

縁に輝きを与え、光沢を生み出すことで部品の美しさを際立たせる面取り（アングラージュ）は、手作業による内角のカッティング、金属や木のさまざまな工具を用いた手作業によるさまざまな研磨など、複数の技術を必要とする緻密な装飾技法です。仕上げでは、角度や反射を一定に保つため、あらゆる技術や作業を完璧に習得することが必要です。

装飾

ギョーシェ彫り、エングレービング、ジュエムセッティング、そしてバラエティに富んだエナメル加工技術など、何世紀にもわたるさまざまな装飾技術を結集したジャガー・ルクルトは、ひとつ屋根の下



に希少なクラフトマンシップ（メティエ・ラール®）専用の工房を持つ数少ない時計製造マニファクチュールのひとつです。

複雑で緻密なグラン・フー・エナメルは、イラストと化学を掛け合わせたようなもので、まるで錬金術のような芸術です。エングレーバーは、さまざまな技法と作業で、金属の表面上で光と影を巧みに操りながら、実に多種多様な模様を生み出します。ジュエッターの仕事は、貴石を金属に固定し、宝石の美しさを引き立てることでありますが、時計にはすでに他の技術で装飾を施されており、ジュエッターには極めて精密で繊細な作業が求められます。専門技術を極めたこの職人たちは、専門のアトリエで隣り合って作業をすることにより、アイデアを交換し合い、創造的なエネルギーを共有することができ、同時にマニファクチュール内で長きにわたって受け継がれてきたノウハウを維持、継承することもできます。

物語は続く

まずは 8 本の映画で、8 つの時計製造技術を取り上げますが、完成したビデオの数が増えるにつれ、すべてを網羅したライブラリーへと成長させる予定です。最初の映画はデザイン、つまり、美学とスタイル、研究開発、研磨、修復、面取り、エナメル加工、エングレービング、ジュエッティングを取り上げます。

ジャガー・ルクルト：ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー

ジャガー・ルクルトは、1833 年からメゾンの本拠地をジュウ渓谷の静寂な地に置いていることが、ホームとして、その場所への独特の帰属意識を高めています。まさにこの地こそ、ジュラ山脈の比類なき景色に着想を得ながら、果てることのない「内なる炎」に導かれ、ジャガー・ルクルトの精神が生まれる場所なのです。すべての作業がひとつ屋根の下で行われているこのマニファクチュールでは、時計職人、エンジニア、デザイナー、芸術職人が一丸となって働き、時計に息吹を吹き込みます。揺るぎないエネルギーと、メゾンに属する一人ひとりのコミットメントを日々促している創造の精神が原動力となり、控えめな洗練さと技術的な創造性を培っています。この精神が、1833 年以来、1,200 以上のキャリアを生み出すパワーの源であり続け、そして、ジャガー・ルクルトをウォッチメーカーの中のウォッチメーカーへと導いているのです。

jaeger-lecoultre.com